

《ジェネラリスト BOOKS》整形画像読影道場

仲田和正 ● 著

〔評者〕 志水太郎 (獨協医大主任教授・総合診療医学)

仲田和正先生の新刊が出ました。実は15年来ずっと仲田先生ファンです。仲田先生といえばTFC メーリングリストの論文 (NEJM, Lancet, JAMA) レビューが有名です。それだけでなく、ベテランの整形外科医であり、しかも院長でいらっしゃるのに、内科や小児科への学びのボーダレスさには憧れとともに、自分も総合診療医として貪欲に学び続けたいという前進の勇気をいつもいただいています。

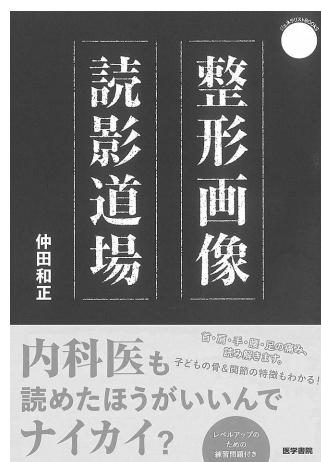
仲田先生のお名前を知ったのは2004年発行の名著『手・足・腰診療スキルアップ』(シーピーアール)ですが、あれから15年が経った今年出版された本書は、上記の本のエッセンスを継承しつつもさらに密度の濃い、それにタイトルどおり画像読影のポイントが前景に出た非専門医のための整形外科の新しい名著です。とにかく画像が豊富です。仲田先生秘蔵の2000枚のティーチングファイルからの抜粋とのこと、「日常診療で、この本程度の知識があれば、さほど困らない」という仲田先生のコメントは、整形外科のX線を学ぶものにとって大きな安心を与えてくれます。

本書の構成は、整形疾患の診察・フィジカル技術に重点の置かれた第1章、そして本書のメインである部位別の整形画像読影の第2章からなります。画像読影にと

どまることなく、整形疾患の診察のポイントも本書の1割以上のページを割いてまとめられているため、仲田先生の教育エッセンスを学ぶこともできます。また第2章では、ジェネラリストに有用と思われる整形画像が、これでもかというくらい紙面狭しと提示されています。X線だけでなく、シエマや体表写真も満載で、大変わかりやすいです。痒い所に手が届く整形画像の指南書として、これまで仲田先生が後進を指導される中で工夫されてきた教育のコツが多く盛り込まれていると感じました。中には化膿性脊椎炎と転移性脊椎腫瘍の画像上の鑑別ポイント (p.78) や、腰椎穿刺の極意 (p.87) など内科的にも重要な内容が含まれ、内科医にも広く読まれるべきと思いました。

仲田先生といえば「怒涛の反復」が代名詞ですが、本書も各章末に「怒涛の反復」として要点がまとめられ、計16問の章末画像問題集もあり、勉強になります。

ボーナストラックのように加えられている仲田先生のチャタリングでウィット効いた写真 (p.90, 他) も素敵です (購入してご覧ください)。仲田先生といえば前述の論文レビューの真面目な内容の中に挿入される、アートに富んだ多くの逸話が印象的ですが、本書にも魅力的なコラムが含まれています。「1枚のX線写真



の背後にあった壮絶な過去」(p.74) はまさにその真骨頂で、ミッドウェイ海戦 (1942年) とそれにまつわる患者さんのエピソードに深い感銘を受けました。

このように、164ページというコンパクトさを感じさせない、重厚さに満ちた仲田先生の最新刊3600円は安すぎます。ぜひ皆さんご購入をお勧めいたします。

なお、本書は医学書院《ジェネラリスト BOOKS》シリーズの一環として出版されています。シリーズには他にも魅力的な書籍が並んでいますので、併せてお読みになると学びも大きいと思います。

A5・頁164

2019年5月

定価：本体3,600円＋税
[ISBN978-4-260-03833-1]

医学書院 刊